

山々に囲まれ、湖水、滝、湿原などが織りなす 火山活動が生み出した 雄大な景観。



Nikko National Park

美しい景観と温泉郷を
育んだ火山活動。

日光国立公園の風光明媚、変化に富んだ自然美は、三つの火山群の活動によりつくられました。

中心部の景観形成に深くかかわったのは日光火山群に属する男体山で、噴火による火砕流は湯川を堰き止めて戦場ヶ原や竜頭滝を、大谷川を堰き止めて中禅寺湖や華厳滝をつくりました。戦場ヶ原は、もとは湖でしたが、土砂や泥炭が堆積して湿原化しました。中禅寺湖は周囲約22km、最深部は163mで、ここから流出する華厳滝の落差97mをはるかにしのぎます。

同じ火山群に属する山王帽子山や太郎山の噴火では、戦場ヶ原の奥に刈込湖や切込湖、湯ノ湖、北関東以北の最高峰・日光白根山の噴火では、群馬県側に丸沼や菅沼などの溶岩堰止湖を出現させました。白根山では、昭和27(1952)年にも鳴動や噴煙など活動の兆候が確認されています。

日光火山群の北東約20km、釈迦ヶ岳を主峰とする高原山火山群では、厚い溶岩流に覆われた北斜面に幅300m、長さ6kmにおよぶ4裂の爆裂火口が確認されています。北麓は塩原温泉郷で、かつて一帯は海だったと考えられ、中塩原付近では噴火により火山灰の堆積層が形成され、多くの植物化石を産出しています。

今でも活動が盛んな那須火山群は高原山の北30kmほど、那須岳とも呼ばれる茶臼岳を中心に、ほぼ南北に連なる山塊です。茶臼岳山頂西側には噴煙絶えない無間地獄があり、昭和28(1953)年と35(1960)年に小規模噴火が観測されています。

火山活動により生成された土地だけに、山あい各所に湯けむり昇る屈指の温泉リゾート地にもなっています。湯どころとしての歴史は古く、大同元(806)年発見と伝えられる塩原温泉郷をはじめ、那須、鬼怒川・川治、湯西川・川俣、奥日光湯元など、温泉地が数多くあります。それぞれに特徴があり、近代的な設備も充実させているところから、平家落人説がまことしやかに語られる隠れ里の湯、大自然の奥懐に抱かれた野趣あふれる秘湯まで楽しめます。



氷瀑の華厳滝



那須駒止の滝



裏見の滝



那須沼原湿原

男体山と光徳沼